



## 2024年3月期 決算説明会資料

2024年6月4日

証券コード：4022

経理部長の望月でございます。どうぞよろしくお願いいたします。  
ご多用中、弊社決算説明会にご参加頂き、誠にありがとうございます。

## 目 次

1. 事業概要
2. 2024年3月期実績及び2025年3月期見通し
3. 新中期経営計画

決算説明会資料の前半、決算関連については私から、後半の長期ビジョンと新中期経営計画については、社長の坂尾からご説明いたします。

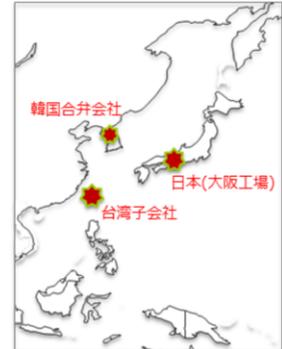
# 1. 事業概要

まず、決算をご説明する前に、【事業概要】について簡単にご説明致します。

## 事業概要

### 会社概要

商号	ラサ工業株式会社
本社	東京都千代田区外神田一丁目18番13号
創業	1913（大正2）年5月1日
設立	1918（大正7）年6月26日
従業員数	620名（連結） <2024年3月31日現在>



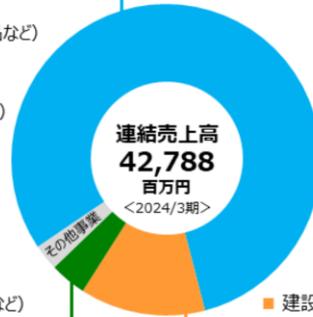
<半導体向け高純度リン酸の製造体制>

### 化成品事業 34,391百万円/80.4%

- リン系製品  
リン酸（一般品、電子工業向け高純度品など）  
リン酸塩など
- 凝集剤（水処理用など）
- その他（コンデンサー向け原料、消臭剤など）

- 化合物半導体向け高純度無機素材（ガリウム、インジウム、赤リン、酸化ホウ素など）
- 放射性ヨウ素吸着剤

### 電子材料事業 1,635百万円/3.8%



- 建設機械（破碎機、選別機、粉体機器）
- 土木機械（掘進機（上下水道向け））

### 機械事業 5,584百万円/13.1%

3

連結売上高427億円の内訳を示している円グラフをご覧ください。

弊社事業は大きく3つに分けられ、一番大きいのは、青色の化成品事業で、約80%、343億円の主力事業です。主な製品としては、リン酸などのリン系製品のほか、凝集剤や、コンデンサー向け原料や、消臭剤などがあります。

2番目は、茶色の機械事業で、連結売上高の約13%、55億円の事業で、破碎機・選別機などの建設機械や、上下水道向けの掘進機などの土木機械があります。

3番目は緑色の電子材料事業で、連結売上高の約4%、16億円の事業で、化合物半導体向け高純度無機素材、具体的には、ガリウム・インジウム・赤燐などや、原発向けの放射性ヨウ素吸着剤などがあります。

なお、この3つの事業以外にも、その他事業として、石油精製用触媒の再生事業と、不動産賃貸業があります。

弊社の近時業績が拡大してきた背景の一つとして、主力事業であります化成品事業の主力製品のひとつ、高純度リン酸、これは半導体の製造工程でエッチング剤としても使われますが、これが半導体関連ユーザーの需要増加により販売が増えてきたことがあげられます。弊社グループでは、品質面での強みに加えて、右の地図にありますように、日本と、台湾の連結子会社と、韓国の持分法適用合併会社の3カ国で高純度リン酸を製造し、各国の半導体関連ユーザーに現地生産・現地販売していることが、この分野における強みになっています。

## 2. 2024年3月期実績及び2025年3月期見通し

4

次に、【2024年3月期実績及び2025年3月期見通し】についてご説明します。

## 2024年3月期 決算概要

- 売上高は、化成品事業、電子材料事業において半導体市況の悪化により減収。機械事業は増収。
- 営業利益は、市況悪化による販売数量減を主因として、22.3%の減益。

(単位：百万円)

	2023/3期	2024/3期	増減	前年同期比	業績予想	増減
売上高	49,600	42,788	△ 6,811	△ 13.7%	43,000	△ 211
営業利益	4,622	3,591	△ 1,031	△ 22.3%	3,250	341
経常利益	4,690	3,396	△ 1,293	△ 27.6%	3,050	346
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,232	2,382	△ 849	△ 26.3%	2,100	282
1株配当金	82.00円	91.00円	9.00円	11.0%	82.00円	9.00円
(減価償却費)	1,845	1,868	22	1.2%		

5

【2024年3月期決算概要】ですが、売上高は427億円で前期比14%の減収、営業利益は35億円で前期比22%の減益、経常利益は33億円で前期比28%の減益、当期純利益は23億円で前期比26%の減益となっています。

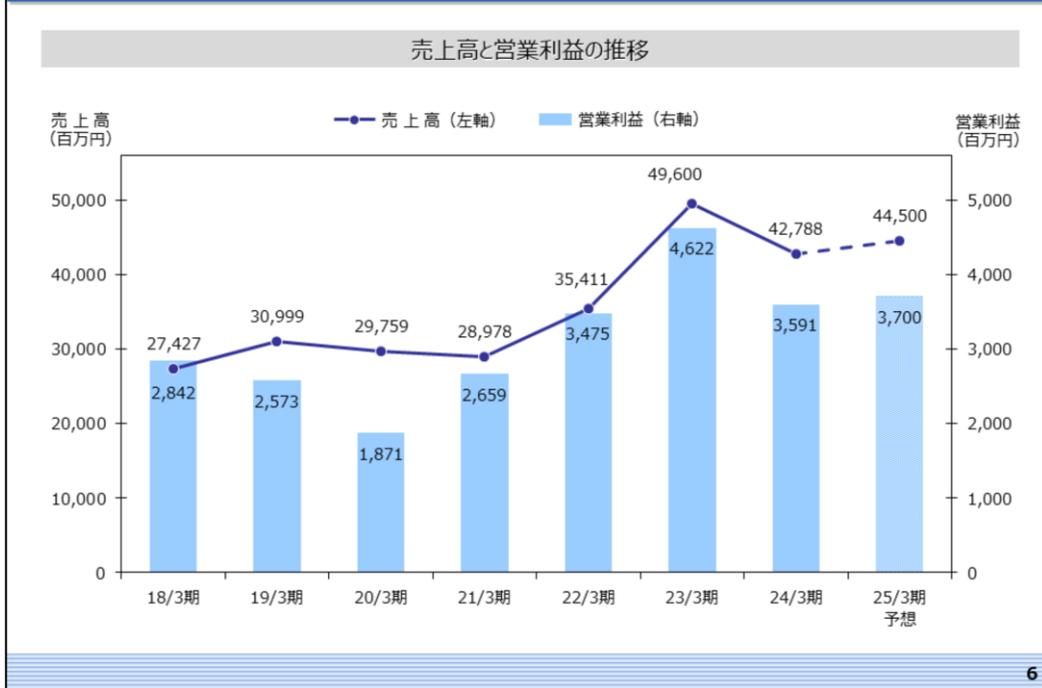
売上高は、化成品事業、電子材料事業において半導体関連市況の悪化などにより前期比減収となりました。

営業利益以下は、市況悪化による販売数量減を主因として、2割以上の前期比減益となりました。

一方、右側の昨年11月発表の業績予想との増減を見ますと、売上高は約2億円、微減しましたが、利益面では1割強、上振れの決算となっています。

これに伴い、配当は、予想から9円増配の、1株年間91円を予定しております。

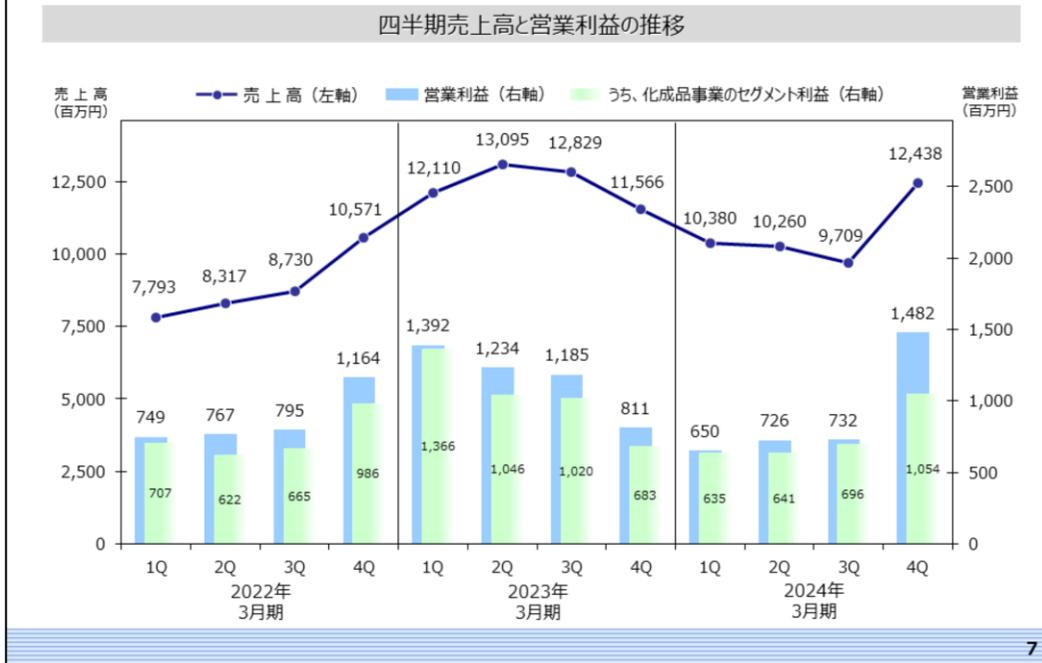
## 年度業績の推移



次に、【年度業績の推移】ですが、過去7期分と新年度予想の連結売上高を折れ線グラフに、営業利益を棒グラフにしています。

営業利益は21/3期まで、30億円以下で推移していましたが、23/3期までの2期で、売上高の大幅増収と共に、過去最高益を2期連続で更新しました。これは主に化成品で半導体関連の需要増加と原料高騰に対する価格是正により売上・利益が増加したことによるものです。24/3期はこの反動による需要減により、減収減益となりましたが、新年度25/3期予想では、電子部品関連市場の調整局面からの回復傾向が継続する想定から、4%増収、営業利益は3%増益を予想しています。

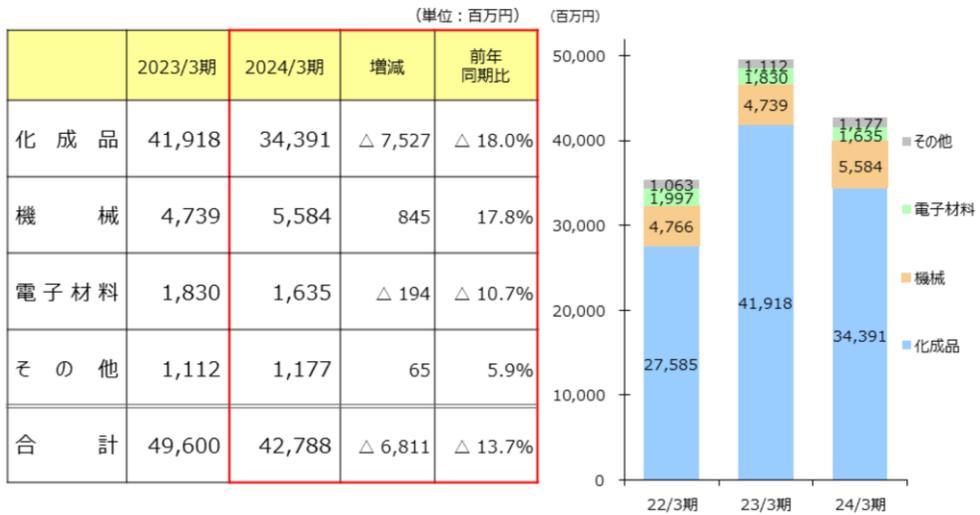
## 四半期業績の推移



次に、【四半期業績の推移】ですが、過去3年分の四半期業績です。営業利益を青い棒グラフで示していますが、内数として、化成系セグメントを緑色の棒グラフで示しています。24/3期の四半期営業利益は1Qから3Qまで7億円前後とやや低い水準が継続していましたが、4Qに大きく増益となり15億円近い水準まで増益となりました。電子部品関連市場の回復もあり、増益に寄与していますが、4Qは3事業ともにスポット要因が寄与した面もあり、ベースとなる利益プラスアルファで着地した結果となっています。

## 2024年3月期 セグメント別概要（売上高）

### 売上高の推移

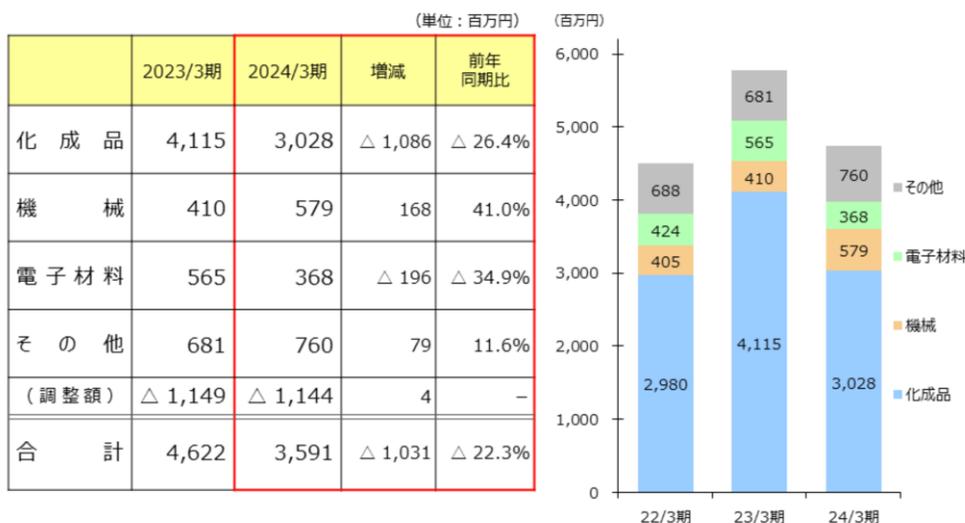


8

次に、【セグメント別概要の売上高】ですが、前期比68億円減収の主因は、化成品の75億円減収によるものです。一方、機械は前期比増収、電子材料は前期比減収でした。

## 2024年3月期 セグメント別概要（利益）

セグメント利益の推移



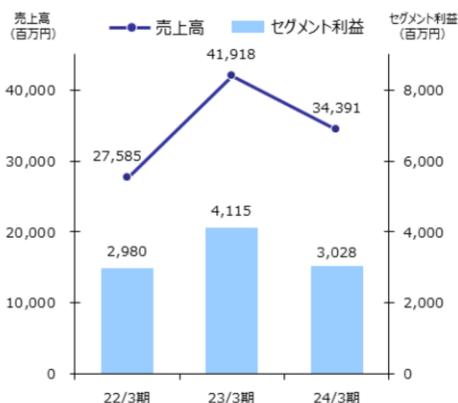
9

次に、【セグメント別の利益】ですが、  
 前期比10億円の減益の主因は、やはり化成品の10億円強の減益でした。  
 一方、機械は41%の増益、電子材料は35%の減益でした。  
 各事業の増減要因は次にご説明します。

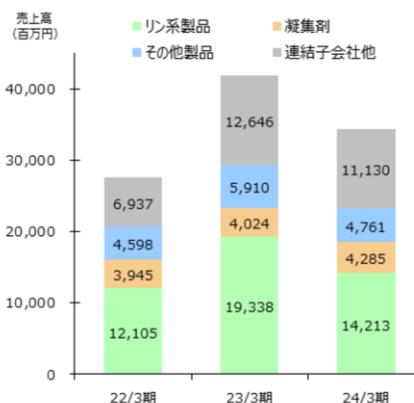
## 化成品事業

- リン系製品は、半導体向け高純度品が、市況の悪化を受け国内外共に大幅減収（連結子会社分を含む）。
- 凝集剤は、上水道向け製品が増収、電子部品のエッチング用途向けが減収。
- その他製品は、コンデンサー向け原料が、調整局面の継続による販売数量の減少により減収。
- 営業利益は、半導体・電子部品関連市況悪化による販売数量減を主因として、26.4%の減益。

【化成品事業】売上高とセグメント利益の推移



【化成品事業】製品別売上高の推移



10

まず、【化成品事業】ですが、左側のグラフで、3年間の売上高を折れ線グラフで、利益を棒グラフで示しており、24/3期は、過去最高益であった、真ん中の23/3期からは減収減益ではありますが、市場の調整局面下でも22/3期の利益、やや上回る利益を計上しています。

右側のグラフで、売上高の内訳を示しており、緑色がリン酸などのリン系製品、オレンジ色が凝集剤、青色がその他製品で、ここまでが単体の内訳、その上のグレーの部分で連結子会社他を示しています。

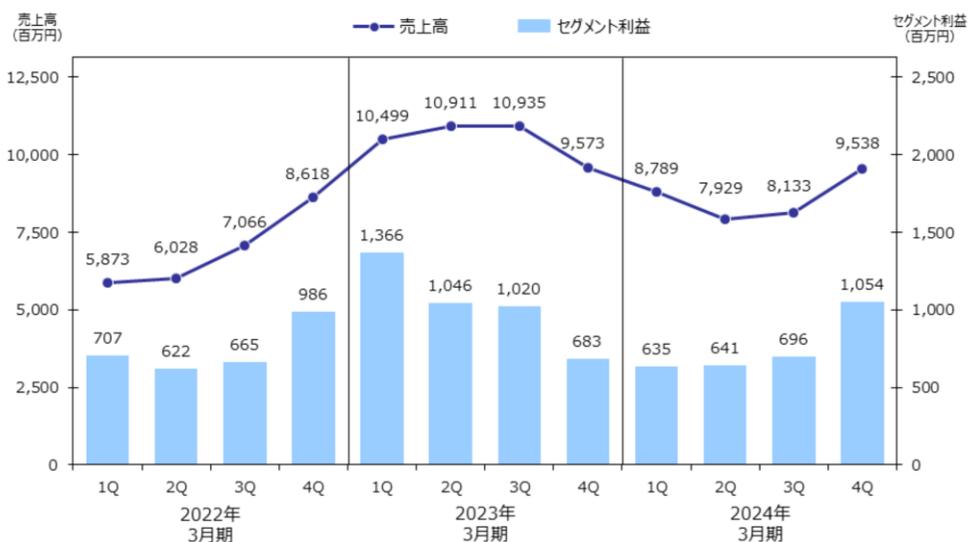
リン系製品と連結子会社は、半導体向け高純度品が、市況の悪化を受け国内外で数量が約2割減少したことを主因として、大幅減収となっています。なお、グレーの連結子会社他111億円の内、台湾の子会社分は約90億円です。

オレンジ色の凝集剤は、上水道向け製品が増収し、若干増収となっています。

青色のその他製品は、コンデンサー向け原料が、調整局面の継続による販売数量の減少により減収となっています。

## 化成品事業（四半期業績）

【化成品事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



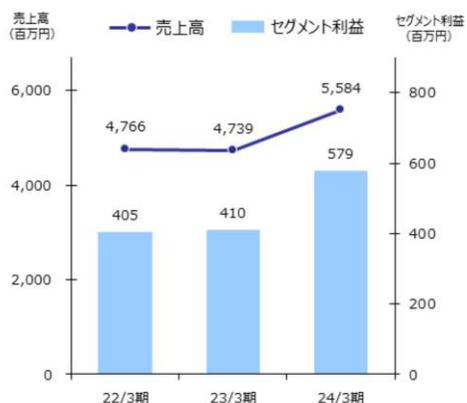
11

次に3年間の四半期業績推移ですが、営業利益は、23/3期4Qから24/3期3Qまでは7億円弱とやや低い水準が続きましたが、4Qに市場の回復傾向もあり、増収増益となりました。なお、4Qには在庫評価関連で50百万円程度の利益要因があった等の、スポット要因が利益にプラスに寄与した面があります。

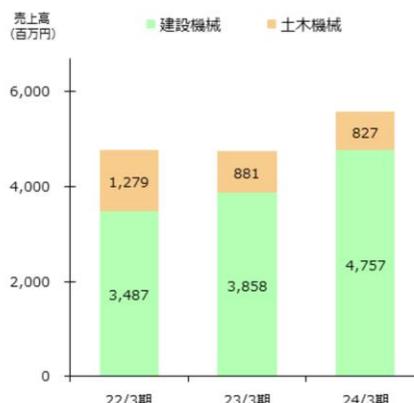
## 機械事業

- 建設機械は、本体販売が減収、プラント販売・消耗部品は増収。精密機械加工は減収。
- 土木機械は、本体販売、レンタル物件ともに減収。
- 営業利益は、建設機械の増収により、41.0%の大幅増益。

【機械事業】売上高とセグメント利益の推移



【機械事業】製品別売上高の推移



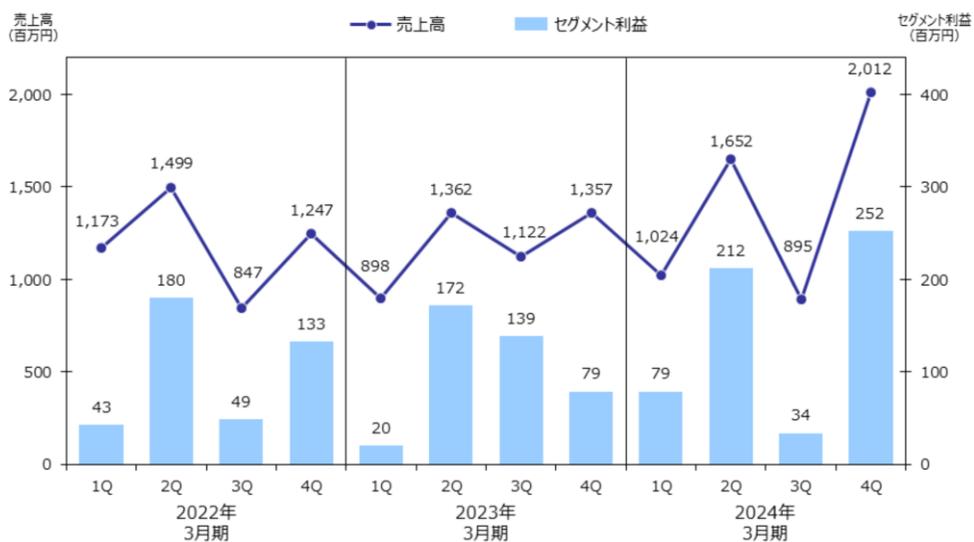
12

次に、【機械事業】ですが、左側のグラフで、3年間の売上高と利益をご覧頂きますと、24/3期は売上・利益ともに前期比増収増益となっています。

右側のグラフで、売上高の内訳を見ますと、緑色の建設機械は、主に国内向けで、プラント販売の増収を主因として前期比増収。一方、オレンジ色の土木機械は、前期比減収で、合わせて前期比増収となっています。

## 機械事業（四半期業績）

【機械事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



13

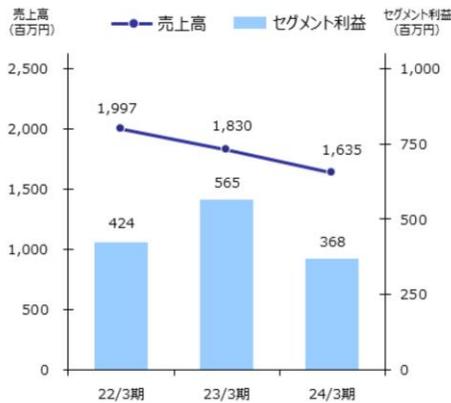
次に四半期業績推移ですが、四半期によるバラツキがあるため、年間トータルでの比較の方が全体感やトレンドを捉えやすいと思います。

なお、4Qにはスポット要因として、大きなプラント販売があったため、3年間の中でも最も大きな売上と利益になっています。

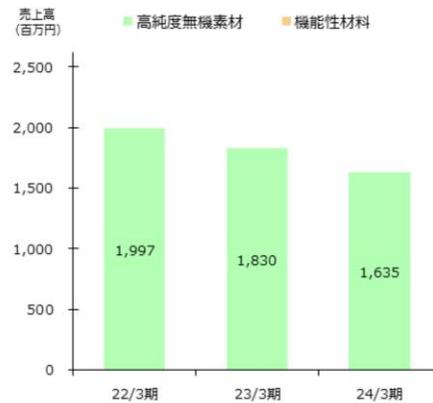
## 電子材料事業

- 化合物半導体向け高純度無機素材は、ガリウムが若干の増収、インジウム、赤燐等が市況の悪化を受け減収。
- 営業利益は、市況悪化による販売数量減を主因として、34.9%の大幅減益。

【電子材料事業】売上高とセグメント利益の推移



【電子材料事業】製品別売上高の推移

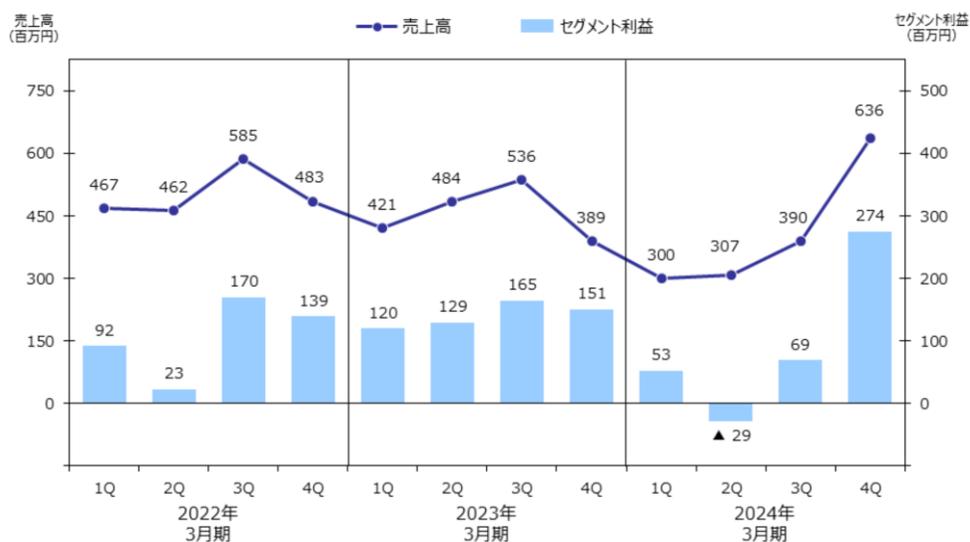


14

次に、【電子材料事業】ですが、左側のグラフで、3年間の売上高と利益をご覧頂きますと、化合物半導体向け高純度無機素材、用途としては、5Gなどの通信関連やデータセンターなどに用いられますが、24/3期はガリウムが若干の増収、インジウムや赤燐などは市況の悪化を受け減収となり、全体として前期比減収となっています。営業利益は、市況悪化による販売数量減を主因として、前期比大幅減益となっています。

## 電子材料事業（四半期業績）

【電子材料事業】売上高とセグメント利益の四半期推移



15

次に四半期業績推移ですが、市況悪化により24/3期1Qから2Qまで売上・利益が低水準でしたが、3Qから売上・利益が改善し、4Qで大きく増収増益となっています。

なお、4Qにはスポット要因による販売などがあり、売上・利益にプラス寄与しています。

## 損益計算書（連結）

(単位：百万円)

	2023/3期	2024/3期	増減	前年同期比
売上高	49,600	42,788	△ 6,811	△ 13.7%
売上原価	40,186	34,531	△ 5,654	△ 14.1%
販売費・一般管理費	4,791	4,666	△ 125	△ 2.6%
営業利益	4,622	3,591	△ 1,031	△ 22.3%
営業外収益	514	224	△ 289	△ 56.2%
営業外費用	446	419	△ 27	△ 6.1%
経常利益	4,690	3,396	△ 1,293	△ 27.6%
特別利益	5	142	136	2419.7%
特別損失	66	81	15	23.7%
税金等調整前当期純利益	4,629	3,457	△ 1,172	△ 25.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,232	2,382	△ 849	△ 26.3%
(減価償却費)	1,845	1,868	22	1.2%

16

次に、【損益計算書】ですが、既に概要及び内訳などについてご説明していますので、ここでは説明を省略させていただきます。

## 貸借対照表（連結）

（単位：百万円）

	2023/3月末	2024/3月末	増減
<b>流動資産 計</b>	<b>25,564</b>	<b>22,497</b>	<b>△ 3,067</b>
現金及び預金	4,940	3,405	△ 1,535
受取手形、売掛金、電子記録債権	11,303	12,232	928
たな卸資産 ※	8,364	6,477	△ 1,887
<b>固定資産 計</b>	<b>21,987</b>	<b>21,826</b>	<b>△ 161</b>
有形固定資産	17,893	17,325	△ 567
無形固定資産	40	48	7
投資その他の資産	4,053	4,452	398
<b>流動負債 計</b>	<b>15,737</b>	<b>12,134</b>	<b>△ 3,602</b>
支払手形及び買掛金	5,524	4,326	△ 1,197
短期借入金	7,147	5,108	△ 2,039
<b>固定負債 計</b>	<b>8,563</b>	<b>7,222</b>	<b>△ 1,340</b>
長期借入金	5,021	3,804	△ 1,216
退職給付に係る負債	3,165	3,031	△ 133
<b>純資産</b>	<b>23,252</b>	<b>24,966</b>	<b>1,714</b>
自己資本	23,125	24,966	1,841
非支配株主持分	126	-	△ 126
<b>総資産</b>	<b>47,552</b>	<b>44,323</b>	<b>△ 3,228</b>
<b>&lt;自己資本比率&gt;</b>	<b>48.6%</b>	<b>56.3%</b>	<b>7.7%</b>

※ たな卸資産 = 商品及び製品 + 仕掛品 + 原材料及び貯蔵品

17

次に、【貸借対照表】ですが、総資産は443億円と前期比約32億円減少しています。要因としては、現預金の減少や棚卸資産の減少などの流動資産の減少が主因です。純資産は約250億円で前期比約17億円増加しました。自己資本比率は56.3%と前期比7.7ポイント増となっており、中計の数値目標の一つである55%を達成できました。

## キャッシュ・フロー計算書（連結）

(単位：百万円)

	2023/3期	2024/3期	増減
営業キャッシュ・フロー	2,042	4,972	2,929
税金等調整前当期純利益	4,629	3,457	△ 1,172
減価償却費	1,845	1,868	22
売上債権の増減額（△は増加）	△ 887	△ 802	84
たな卸資産の増減額（△は増加）	△ 3,016	2,078	5,095
仕入債務の増減額（△は減少）	1,254	△ 1,224	△ 2,479
法人税等の支払額	△ 1,203	△ 1,218	△ 15
投資キャッシュ・フロー	△ 961	△ 1,891	△ 930
有形固定資産の取得による支出	△ 919	△ 983	△ 63
財務キャッシュ・フロー	245	△ 4,735	△ 4,981
借入金の純増減額	896	△ 3,470	△ 4,366
現金及び現金同等物 期中増減額	1,402	△ 1,535	△ 2,937
現金及び現金同等物 期末残高	4,940	3,405	△ 1,535

18

次の【キャッシュフロー計算書】は、ご説明を省略させていただきます。

## 2025年3月期の業績予想

- 化成品事業は、電子部品関連市場の調整局面からの回復傾向が継続する想定から、増収増益を見込む。
- 機械事業は、下水道関連の掘進機は海外向け販売が回復するものの、破碎関連機械は工期の長いプラント販売が前期に集中した反動から、減収減益を見込む。
- 電子材料事業は、高純度赤燐や酸化ホウ素等は販売数量が回復するものの、ガリウムは販売数量の減少から、売上は前年並み、利益は減益を見込む。

(単位：百万円)

	2024/3期	2025/3期予想	増減	前年同期比
売上高	42,788	44,500	1,712	4.0%
化成品事業	34,391	37,200	2,809	8.2%
機械事業	5,584	4,500	△ 1,084	△ 19.4%
電子材料事業	1,635	1,650	15	0.9%
その他の事業	1,177	1,150	△ 27	△ 2.3%
営業利益	3,591	3,700	109	3.0%
化成品事業	3,028	3,650	622	20.5%
機械事業	579	400	△ 179	△ 30.9%
電子材料事業	368	150	△ 218	△ 59.2%
その他の事業	760	750	△ 10	△ 1.3%
全社費用など	△ 1,144	△ 1,250	△ 106	9.3%
経常利益	3,396	3,600	204	6.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,382	2,500	118	5.0%
1株配当金	91.00円	96.00円	5.00円	5.5%
想定為替レート		147円/USD		

19

新年度、【2025/3期の業績予想】ですが、

売上高は445億円、前期比17億円、4%増収、営業利益37億円、1億円、3%増益、経常利益は36億円、2億円6%増益、当期純利益25億円、1億円、5%増益と前期比増収増益の予想です。

利益水準は、前期の期初予想と同額。また、2期前、22/3期の実績からは若干増益の水準です。

なお、営業利益37億円の上・下の内訳は、上期17億円、下期20億円と、下厚の予想です。

各事業別にみますと、化成品事業は、電子部品関連市場の調整局面からの回復傾向が継続する想定から、前期比8%の増収、20%の増益を見込んでいます。

機械事業は、下水道関連の掘進機は、海外向け販売が回復するものの、国内向けの破碎関連機械はプラント販売が前期に集中した反動から減収減益を見込んでいます。

電子材料事業は、高純度赤燐や酸化ホウ素などは販売数量が回復するものの、ガリウムは販売数量の減少から、売上は前年並み、利益は減益を見込んでいます。

また、その他事業は若干の減益、全社費用などは1億円のマイナスを予想しています。

なお、年間配当金は前期比5円増配の年間96円を予想しています。

## 株主還元方針

- 株主への利益還元を重視しつつも、業績の推移を勘案した財務体質改善および将来の設備投資や事業展開の原資としての内部留保との調和を総合的に検討し決定する。
- 安定配当を堅持しつつ配当性向の更なる向上を目指す。

これに加えて、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応として、

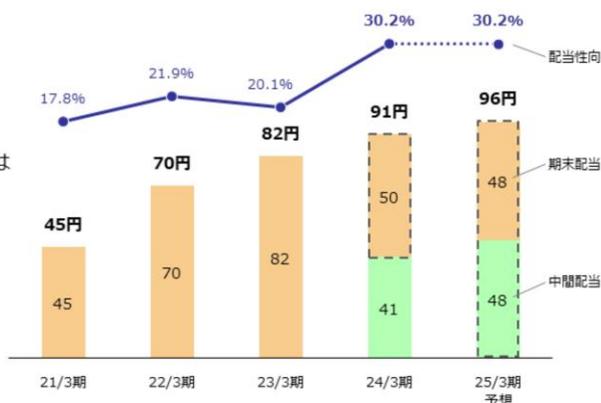
**「配当性向30%以上、ROE10%以上」**を新たな目標に設定。

### 2024年3月期

- 期末配当は、直近予想の1株当たり41円から9円増配の50円を予定
- 中間配当41円と合わせ、年間配当は91円を予定

### 2025年3月期

- 年間配当96円（中間配当48円、期末配当48円）を予定。



20

これに関連し、【株主還元方針】ですが、

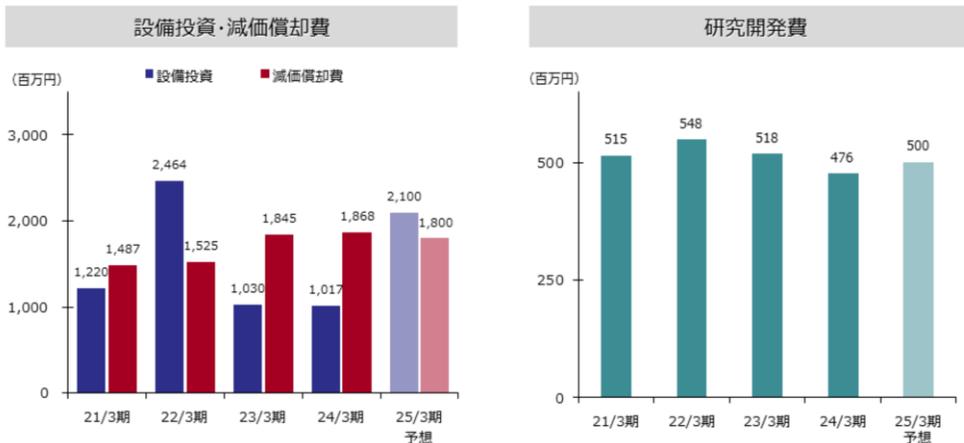
従来からの、業績と財務体質改善・内部留保との調和を総合的に検討、安定配当の堅持などの方針に加え、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応として、

「配当性向30%以上、ROE10%以上」を新たな目標に設定致しました。詳細は後半部分で別途ご説明しますが、

これらの方針や目標に基づき、24/3期年間配当91円、25/3期予想96円を予定しており、いずれも配当性向は30.2%となっています。

## 設備投資・減価償却費及び研究開発費の推移

- 設備投資は、2025年3月期は主に維持更新投資が中心であり、減価償却費をやや上回る設備投資を計画。
- 研究開発費は、主に電子材料事業において、原子力の安全性・信頼性向上のための研究開発（当社製品：放射性ヨウ素吸着剤等の研究開発）を2021年3月期から継続。



21

最後に、【設備投資、減価償却費、研究開発費の推移】ですが、

左側の青い棒グラフの通り、22/3期の設備投資は約25億円と、化成品の台湾子会社で、半導体向け高純度燐酸の増産投資を実施したため、増加しましたが、23/3期24/3期は10億円強と減価償却の範囲内の投資、一方、25/3期予想は21億円と減価償却をやや上回る設備投資を計画していますが、主に維持更新投資が中心です。

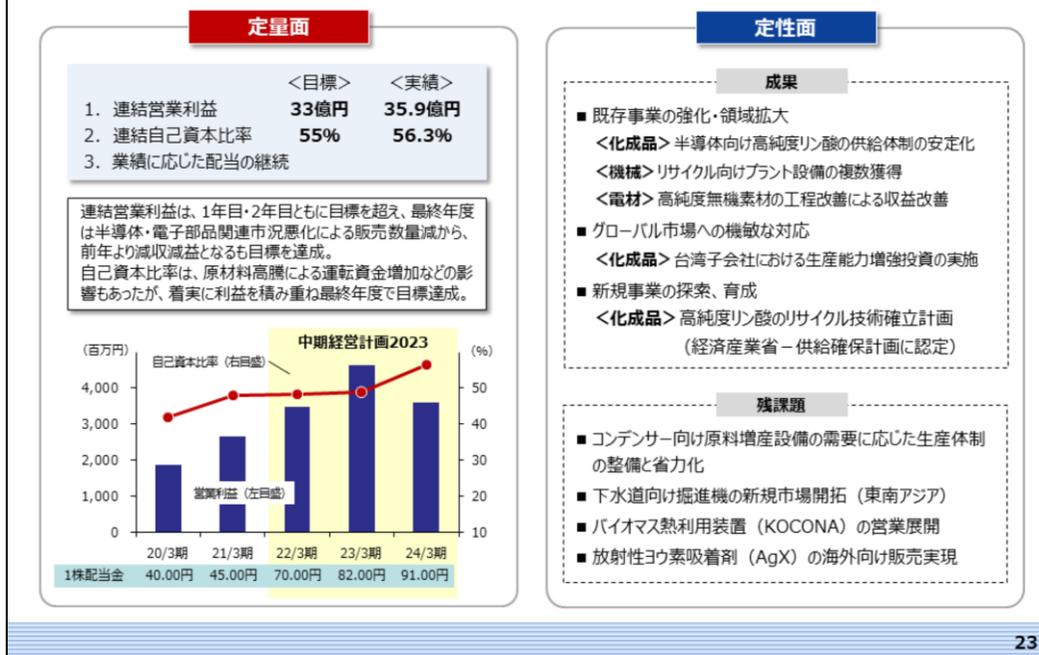
また、研究開発費については、21/3期より電子材料事業で放射性ヨウ素吸着剤の将来に向けた研究開発を年間約1億円前後継続して行っており、25/3期も前期並みの金額を見込んでいます。

前半の決算関係についてのご説明は以上です。

### 3. 新中期経営計画

社長の坂尾でございます。どうぞ宜しくお願い致します。  
それでは、私からは、新中期経営計画などについてご説明いたします。

## 前中期経営計画の総括



23

まず、【前中期経営計画の総括】についてご説明いたします。

2023年度までの中期経営計画2023では、「次世代への変化に対応した事業戦略の推進と将来に向けた事業基盤の更なる強化」を目指すを基本方針として、

定量面の目標として、連結営業利益33億円、連結自己資本比率55%、業績に応じた配当の継続を目指してまいりました。実績は、営業利益は3年連続で目標を達成、自己資本比率も目標を達成することができました。配当についても3年連続で増配を行い、配当額の倍増を実現しました。

定性面では、既存事業の強化・領域拡大で、化成品の半導体向け高純度リン酸の供給体制の安定化など、グローバル市場への機敏な対応で、化成品の台湾子会社における生産能力増強投資の実施、新規事業の探索・育成で、化成品の高純度リン酸のリサイクル技術確立計画、などの成果を上げることができました。

一方で、コンデンサー向け原料増産設備の需要に応じた生産体制の整備と省力化や、放射性ヨウ素吸着剤(AgX)の海外向け販売、などは実現に至らず、残された課題もございました。

## 長期ビジョン「Rasa Vision 2033」と理念体系

### 企業理念

私たちは、信頼と誠実を大切に、ものづくりを通じて、  
新たな価値の創造と豊かな社会の実現に貢献します。

ラサ工業の存在意義（パーパス）  
産業を「モト」から支え、共に未来を築く

### 長期ビジョン

**Rasa Vision 2033**

創業120周年とその先に向けて

24

2024年度から始まる新しい中期経営計画を策定するに際して、まずは10年後の弊社のありたい姿を考えることから始めました。2023年は弊社の創業110周年であったことから、10年後の創業120周年である2033年のありたい姿を長期ビジョン「Rasa Vision 2033」にまとめました。

併せて、企業理念の体系を整理し、新たに存在意義（パーパス）を産業を「モト」から支え、共に未来を築く として、長期ビジョンを作成しました。

## Rasa Vision 2033 基本方針

### 企業価値の向上と持続的成長の追求

#### 1 事業ポートフォリオの最適化

- コア事業の収益力強化と成長事業の拡大
- 資本効率性を意識したROIC経営
- 新たな市場機会や成長分野への取組み強化

#### 2 新規事業の創出

- 顧客ニーズに基づく付加価値の高い新製品開発
- 新たな軸となる事業の育成
- 研究開発の強化

#### 3 人材戦略への注力

- 社内人材育成の強化
- ダイバーシティ&インクルージョン促進と採用力強化

### サステナブルな未来の実現

#### 4 気候変動への対応と循環型社会の構築

- 温室効果ガスの排出削減
- 再生可能エネルギーへの移行
- 環境にやさしい製品の拡充

#### 5 安全かつ安定操業の継続

- 事故ゼロの企業へ
- 安定した品質と供給体制の継続
- BCM（事業継続マネジメント）の強化

#### 6 ガバナンスの強化

- コンプライアンスの徹底の継続
- リスクマネジメントの強化

【長期ビジョン「Rasa Vision 2033」の基本方針】は、  
企業価値の向上と持続的成長の追求 と  
サステナブルな未来の実現 を2本柱として、  
それぞれ、事業ポートフォリオの最適化  
新規事業の創出  
人材戦略への注力

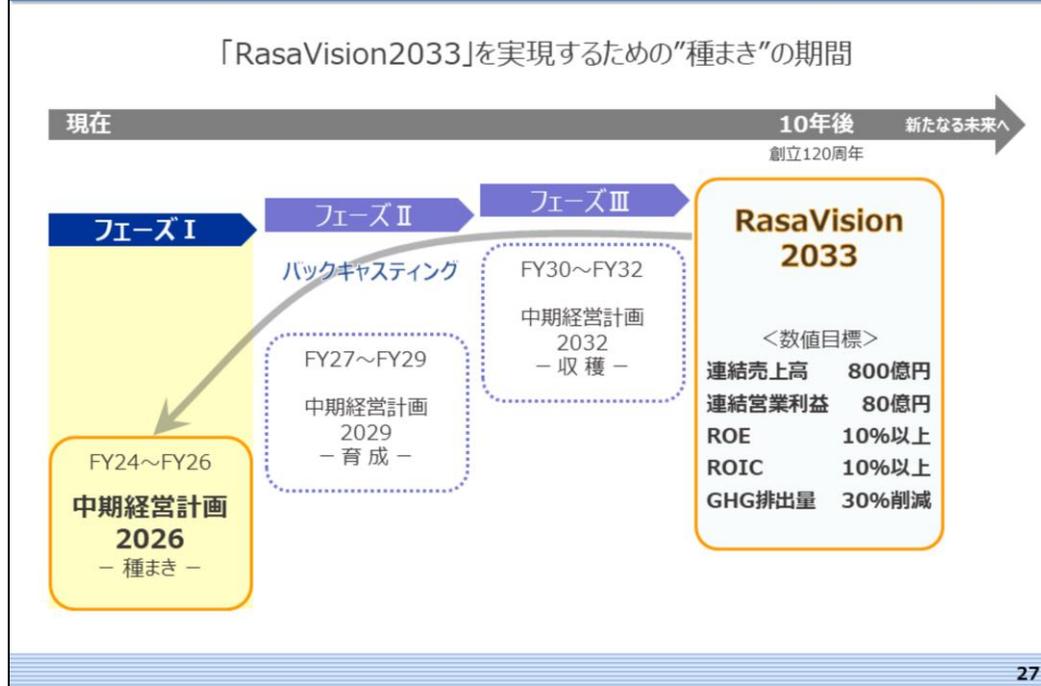
また、気候変動への対応と循環型社会の構築  
安全かつ安定操業の継続  
ガバナンスの強化 に取り組んでまいります。

# Rasa Vision 2033 ESG目標

	【マテリアリティ】	【取り組み】	【指標と目標】	【関連するSDGs】
Environment 環境	気候変動への対応	温室効果ガスの削減	CO2排出量(Scope1,2)削減:2033年までに30%	
		森林の保全	生物多様性の保全:休廃止鉱山の適切な管理	
Social 社会	循環型社会の構築	資源の有効活用	産業廃棄物の適正な処理の実施	
		環境にやさしい製品の拡充	関連製品の拡充	
Social 社会	人権の尊重	ダイバーシティ	採用数に占める女性社員の率:25%以上	
		働きやすい職場(ワークライフバランス)	有休取得率:70%以上	
Social 社会	人的資本への投資	労働安全衛生	労働災害発生件数(休業1日以上):0件	
		人材育成	階層別教育研修の充実	
Governance ガバナンス	コンプライアンスの徹底	公正な取引(お取引様との共存共栄を旨とする)	社内研修の実施(年1回以上)	
		コンプライアンス		
Governance ガバナンス	リスクマネジメントの推進	BCP	事業継続計画(BCP)の再構築	
		情報セキュリティ	情報セキュリティの強化:重大インシデント発生 0件	

また、【長期ビジョンのESG目標】として、環境・社会・ガバナンス、それぞれに関する重要課題・マテリアリティを特定し、その取り組み事項と指標・目標を定めて中長期的に取り組んでまいります。

## Rasa Vision 2033 数値目標と中期経営計画2026の位置づけ



次に、【長期ビジョンの数値目標と、新しい中期経営計画2026の位置づけ】ですが、

長期ビジョンの数値目標を、

創業120周年を迎える、2033年の連結売上高800億円(24/3期の約1.9倍)

連結営業利益 80億円(24/3期の約2.2倍)

ROE 10%以上

ROIC 10%以上

GHG排出量 30%削減 と定め、これに向けて取り組んでまいります。

この10年後の長期ビジョンを実現するためのバックキャストの考え方から、今後の9年間を種まき・育成・収穫の三つのフェーズに分け、新しい中期経営計画2026は、まず第一フェーズ、種まきの3年間と位置づけ、長期ビジョンの実現に向けて取り組んでまいります。

## 中期経営計画2026の概要

計画名称・期間

中期経営計画2026 2024～2026年度（3年間）

基本方針

経営資源の最適化と収益力強化を推進し、  
企業価値向上への基盤強化を図る

数値目標

■ 連結売上高	520億円	■ ROE（自己資本利益率）	10%
■ 連結営業利益	48億円	■ ROIC（投下資本利益率）	9%
		■ 配当性向	30%以上

全社方針

- ① 経営資源最適化のための体制構築
- ② 新規事業の創出
- ③ 人材戦略への注力
- ④ 気候変動への対応と循環型社会の構築
- ⑤ 安全かつ安定操業の継続
- ⑥ 経営管理の強化
- ⑦ 株主還元の向上

28

【中期経営計画2026の概要】ですが、

基本方針を、経営資源の最適化と収益力強化を推進し、企業価値向上への基盤強化を図るとし、

数値目標を、連結売上高520億円、連結営業利益48億円

ROE10%、ROIC9%、配当性向30%以上とし、

全社方針として、経営資源最適化のための体制構築

新規事業の創出

人材戦略への注力

気候変動への対応と循環型社会の構築

安全かつ安定操業の継続

経営管理の強化

株主還元の向上 に取り組んでまいります。

## 中期経営計画2026の施策

- ① 経営資源最適化のための体制構築
  - ✓ コア事業の収益力強化と成長事業の拡大
  - ✓ ROIC管理の導入
  - ✓ 新たな市場機会や成長分野への取り組み強化
  - ✓ DXの推進
- ② 新規事業の創出
  - ✓ 研究開発の強化
  - ✓ 研究開発環境の整備
  - ✓ エンジニアリングチェーンの強化
- ③ 人材戦略への注力
  - ✓ 人材育成環境の整備
  - ✓ ナレッジマネジメントの推進
  - ✓ 育成プログラムの見直しと強化
- ④ 気候変動への対応と循環型社会の構築
  - ✓ 温室効果ガスの排出削減
  - ✓ 再生可能エネルギーへの移行
  - ✓ 環境にやさしい製品の拡充
- ⑤ 安全かつ安定操業の継続
  - ✓ 安全衛生管理の強化
  - ✓ リスクアセスメントに基づいたBCPの見直し
- ⑥ 経営管理の強化
  - ✓ コンプライアンスの徹底の継続
  - ✓ リスクマネジメント体制の見直し
- ⑦ 株主還元の上向
  - ✓ 業績に応じた株主還元の実施

29

次に【中期経営計画2026の施策】の概要ですが、

各全社方針に対し、

コア事業の収益力強化と成長事業の拡大

新たな市場機会や成長分野への取り組み強化

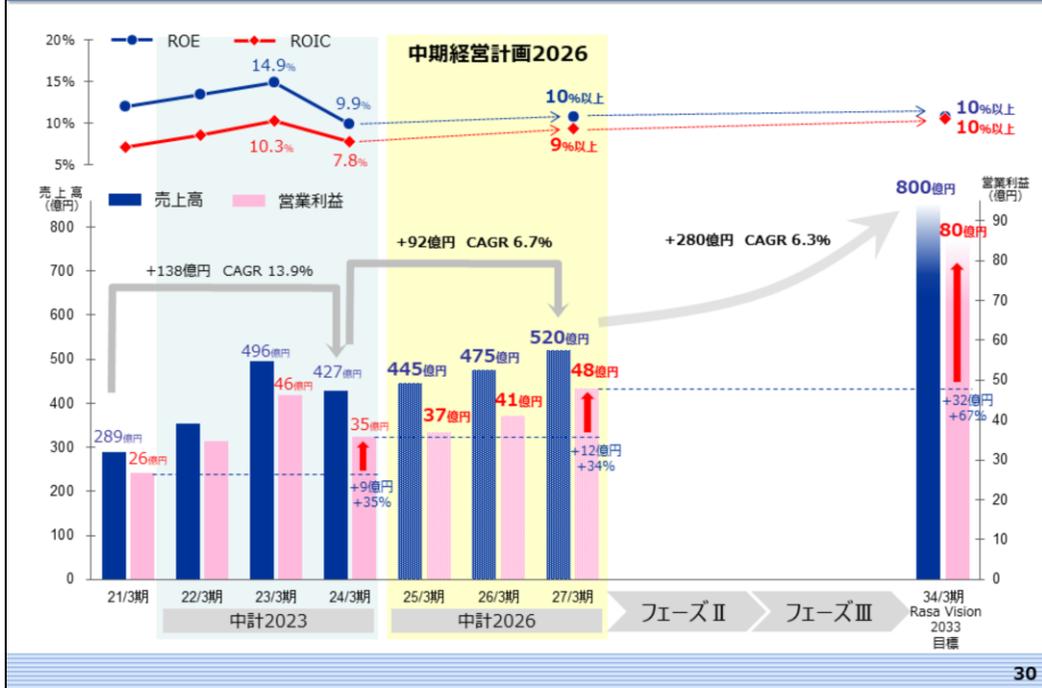
研究開発の強化

温室効果ガスの排出削減

安全衛生管理の強化

業績に応じた株主還元の実施 などの施策を実行してまいります。

## 中期経営計画2026の数値目標 1/2



次に【数値目標】ですが、

最終年度、27/3期の連結売上高520億円は、24/3期比 92億円増収で、年平均成長率CAGR 6.7%の目標です。

営業利益48億円は24/3期比 12億円増益で、34%増の目標です。

この目標は、過去最高益であった、23/3期の実績を上回るもので、売上高の500億円超えと、営業利益の過去最高益の更新を目指すものです。

これらの3年間の目標値は、前中計の3年間で営業利益が35%増益した実績から見ても、十分に実現可能性があると考えておりますし、長期ビジョンの目標値、売上高800億円、営業利益80億円、にも十分につながる可能性の高い目標と考えております。

## 中期経営計画2026の数値目標 2/2

(単位：百万円)

	2024/3期	2025/3期 予想	2026/3期 計画	2027/3期 計画	3か年増減	増減率
売上高	42,788	44,500	47,500	52,000	9,212	22%
化成品事業	34,391	37,200	39,200	42,400	8,009	23%
機械事業	5,584	4,500	5,400	6,000	416	7%
電子材料事業	1,635	1,650	1,800	2,400	765	47%
その他の事業	1,177	1,150	1,100	1,200	23	2%
営業利益	3,591	3,700	4,100	4,800	1,209	34%
化成品事業	3,028	3,650	4,000	4,350	1,322	44%
機械事業	579	400	600	650	71	12%
電子材料事業	368	150	200	400	32	9%
その他の事業	760	750	700	800	40	5%
全社費用など	△ 1,144	△ 1,250	△ 1,400	△ 1,400	△ 256	22%
経常利益	3,396	3,600	4,000	4,800	1,404	41%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,382	2,500	2,800	3,200	818	34%
ROE	9.9%	9.7%	10.1%	10.8%	0.9%	—
ROIC	7.8%	7.9%	8.4%	9.3%	1.5%	—
純資産	24,966	26,000	28,000	30,000	5,033	20%

31

次に、【数値目標】の部門別目標などですが、

3か年増減で売上高92億円増収、22%増収の主因は化成品で、80億円増収、23%増収の目標です。

その他、機械で4億円増収、電材で8億円増収を計画しています。

営業利益は12億円増益、34%増益の主因はやはり化成品で13億円増益、44%増益です。

その他の事業も若干の増益を計画しています。また全社費用などで3億円弱の減益要因もあります。

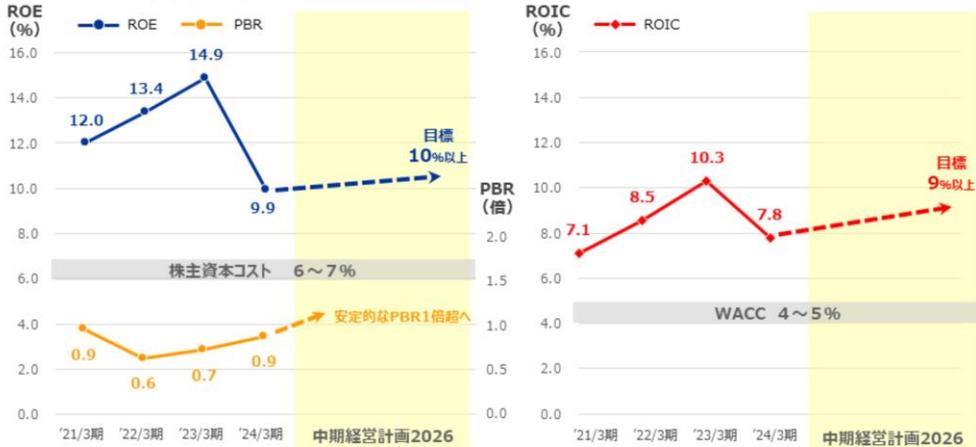
経常利益は14億円増益、当期純利益は8億円増益の計画で、

ROEで0.9%増、ROICで1.5%増を計画し、純資産は20%増、50億円増の300億円となる計画です。

## 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 1/2

### 現状認識

- 株主資本コストの水準は、CAPMにより算出し6～7%程度、WACC（加重平均資本コスト）はCAPMによる株主資本コストと負債コストから、4～5%程度と認識。
- ROEは、株主資本コストを上回る水準を維持しているものの、PBRは1倍割れの状況が続いている。
- PBR1倍割れが続いた要因として、当社の長期的な成長戦略や経営資源の配分方針などの開示がなく、株主還元においても明確な水準を示していなかったことが要因と評価。



32

次に、【資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応】ですが、現状認識として、ROEは、株主資本コストを上回る水準を維持しているものの、PBRは1倍割れの状況が続いていた要因は、当社の長期的な成長戦略や経営資源の配分方針などの開示がなく、株主還元においても明確な水準を示していなかったことと認識しています。

## 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 2 / 2

### 取組方針

- 長期ビジョン「Rasa Vision 2033」を策定し、それ実現するための“種まき”の期間（フェーズⅠ）と位置づける中期経営計画2026の取組みを進め、資本コストや株価を意識した経営を本格化させる。
- 収益力と資本効率性の向上、非財務施策への取組みにより、企業価値の向上を目指す。

### 具体策

PBR	ROE	資本効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ キャッシュアロケーションに基づいた適切な経営資源の配分</li> <li>✓ 業績と財務状況、事業展開の原資とのバランスを勘案した株主還元の実施</li> <li>✓ 配当性向30%以上</li> </ul>
	PER	資本収益性	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ROE10%を目標とした株主資本コストを上回る水準の維持</li> <li>✓ ROIC9%を目標としたROIC管理の強化</li> <li>✓ コア事業の収益力強化と成長事業の拡大</li> </ul>
		成長性 非財務施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長期ビジョンを目指した中期経営計画の着実な実行</li> <li>✓ 新規事業、成長事業への投資強化による成長戦略の実施</li> <li>✓ マテリアリティ（重要課題）への取組み</li> </ul>

33

そのため、取組方針として、長期的な成長戦略として、新たに長期ビジョンを策定し、それを実現するための種まきの期間として新しい中期経営計画2026を策定し、その取組みを進めることにより、資本コストや株価を意識した経営を本格化させること、

収益力と資本効率性の向上、非財務施策への取組みにより、企業価値の向上を目指すこととしました。

具体策として、資本効率性の観点から、

キャッシュアロケーションに基づいた適切な経営資源の配分

業績と財務状況、事業展開の原資とのバランスを勘案した株主還元の実施

配当性向30%以上の目標を新たに定め、

また、資本収益性の観点から、

ROE10%、ROIC9%の目標を新たに定め、

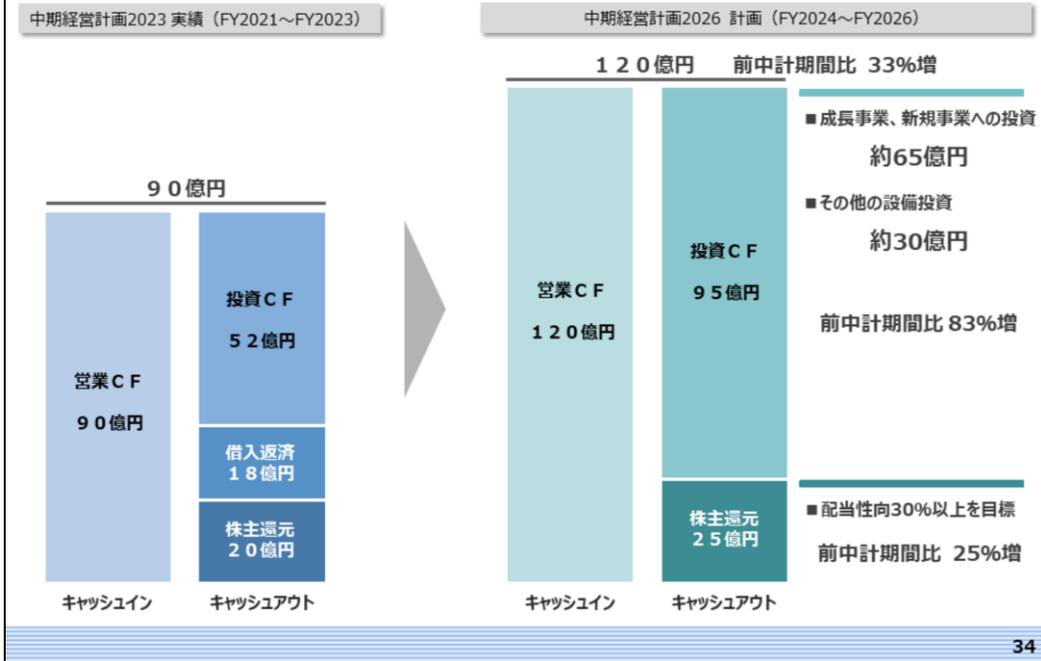
成長性や非財務施策の観点から、

長期ビジョンを目指した三つのフェーズでの中期経営計画の着実な実行

新規事業、成長事業への投資強化による成長戦略の実施

マテリアリティ(重要課題)への取組み を進めてまいります。

## 中期経営計画2026 キャッシュアロケーション



これに関連し、【中期経営計画2026 でのキャッシュアロケーション】の計画ですが、

3か年の営業キャッシュフロー120億円は前中計比33%増の計画で、投資キャッシュフロー95億円と、株主還元25億円に使う計画です。

投資キャッシュフロー95億円は前中計比83%増の計画で、その内訳は、成長事業・新規事業への投資に65億円、その他の設備投資に30億円投資する計画です。

## 重点施策①



<リン酸>



<消臭剤>



<台湾子会社>

### 化成品事業



#### ■ コア事業の収益力強化

- ✓ 半導体向け高純度リン酸－国内外における安定操業と拡販
- ✓ コンデンサー向け原料増産設備の安定操業の整備と省力化

#### ■ 成長事業の拡大

- ✓ 日本・東アジア・北米の新規販売先の獲得（半導体向け高純度リン酸）
- ✓ 韓国合弁会社が北米に半導体向け高純度リン酸の新工場を建設

#### ■ 新規事業の創出

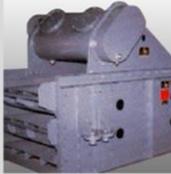
- ✓ 高純度リン酸のリサイクル実用化

次に各事業別の重点施策ですが、  
まず、【化成品事業】については、  
コア事業の収益力強化で、  
半導体向け高純度リン酸の国内外における安定操業と拡販や、  
コンデンサー向け原料増産設備の安定操業の整備と省力化を行います。  
また、成長事業の拡大で、  
日本・東アジア・北米の半導体向け高純度リン酸の新規販売先獲得や、  
韓国合弁会社が北米に半導体向け高純度リン酸の新工場建設を行います。  
また、新規事業の創出で、  
高純度リン酸のリサイクル実用化を目指します。

## 重点施策②



<掘進機>



<選別機>



<粉碎機>

### 機械事業



#### ■ コア事業の収益力強化

- ✓ 建設機械の単体・部品の入替需要に対し、密な営業活動

#### ■ 成長事業の拡大

- ✓ 下水道向け掘進機の新規市場開拓（東南アジア）

#### ■ 新規事業の創出

- ✓ 新事業の探索

次に【機械事業】については、  
コア事業の収益力強化で、  
建設機械の単体・部品の入替需要に対し、密な営業活動を行います。  
また、成長事業の拡大で、  
下水道向け掘進機の新規市場開拓を東南アジア中心に行います。  
また、新規事業の創出で、  
新事業の探索を行います。

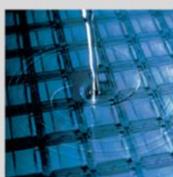
## 重点施策③



<高純度無機素材>



<放射性ヨウ素吸着剤>



<塗布剤>

### 電子材料事業



#### ■ コア事業の収益力強化

- ✓ 高純度無機素材の品質・コストの競争力を向上し、シェア拡大
- ✓ 放射性ヨウ素吸着剤（AgX）の継続的な販売の実現

#### ■ 成長事業の拡大

- ✓ 放射性ヨウ素吸着剤（AgX）の海外市場開拓

#### ■ 新規事業の創出

- ✓ 次世代半導体用材料の開発

次に【電子材料事業】については、  
コア事業の収益力強化で、  
高純度無機素材の品質・コストの競争力の向上・シェア拡大や、  
放射性ヨウ素吸着剤の継続的な販売の実現を目指します。  
また、成長事業の拡大で、  
放射性ヨウ素吸着剤の海外市場開拓を実施します。  
また、新規事業の創出で、  
次世代半導体用材料の開発を行なってまいります。

以上、長期ビジョンならびに新中期経営計画についてご説明いたしました。

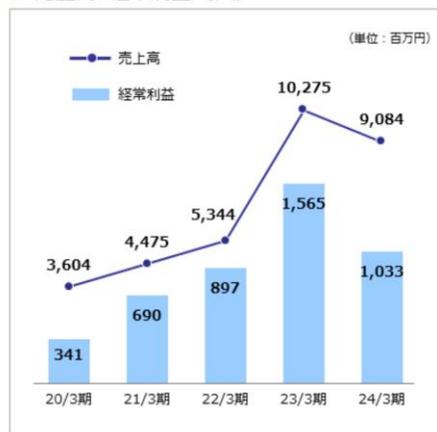
## <参考> 台湾連結子会社

会社名 理盛精密科技股份有限公司  
(Rasa Technology Taiwan Ltd.)

- ▶ 設立 2003年12月17日
- ▶ 所在地 台中市梧棲區緯二路1號



### ▶ 売上高と経常利益の推移

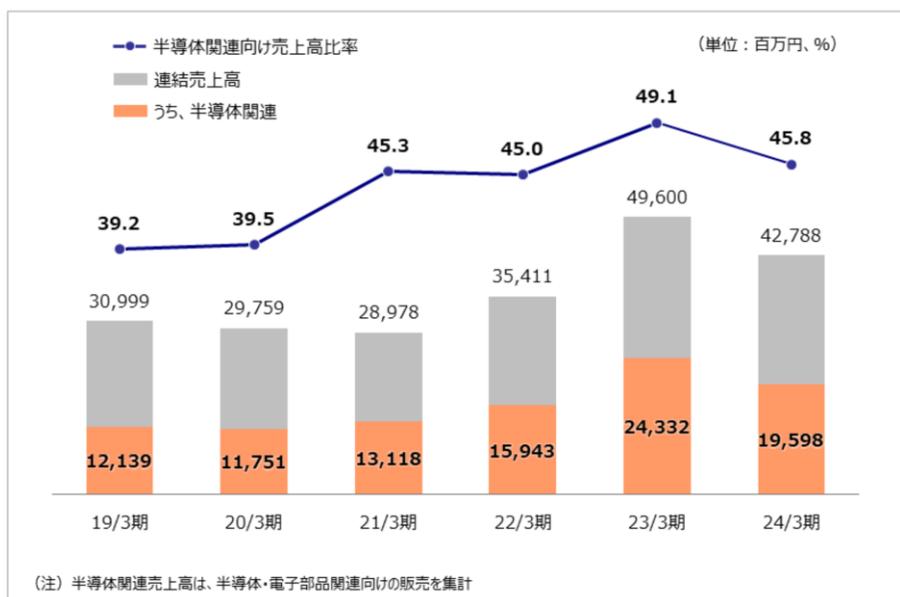


38

最後に、参考資料を2ページご説明します。

まず、【台湾連結子会社】の業績推移です。24/3期は減収減益となりましたが、中期的なトレンドとしては、台湾の半導体関連業界の需要増加と共に、順調に業績を伸ばしており、過去2期は連結経常利益の約3割を占めるところまで成長してきており、今後の更なる成長を期待しています。

## <参考> 半導体関連 (注) 向け売上高



39

次に、【半導体関連向け売上高】とその比率の推移ですが、やはり中期的なトレンドとしては、半導体関連向け売上高が増加してきており、5年前の1.6倍に増加し、売上高に占める比率も45%程度になっています。

以上、参考資料についてご説明いたしました。

## 本資料に関する注意事項

本資料に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、将来の数値等に関する記載については、不確実な要素を含んだものをご理解下さい。

－IRに関する問い合わせ窓口－  
ラサ工業株式会社 経理部  
03-3258-1835

弊社は今後、本日開示しました、長期ビジョンと新中期経営計画の実現に向けて全力で取り組んでまいります。

半導体・電子部品関連市場は、昨年度の調整局面からの回復途上にあり、今後は生成AI関連の需要増加も期待され、中長期的には成長市場と考えており、その成長を弊社の成長にもつなげて行きたいと考えておりますので、引き続きご支援の程、お願い申し上げます。

本日は、誠にありがとうございました。